

## ILSI Japan 活動報告<2024>

### バイオテクノロジー研究会

活動ビジョン・ゴール	年度目標
<p>バイオテクノロジーを用いた持続可能な食料の安定供給への貢献を念頭に、バイオテクノロジーの重要性の理解を深め、バイオテクノロジー応用食品・作物・添加物等の安全性・活用に関する調査研究と情報提供を産・学・官連携及び国際的ネットワークを通して推進し、科学的根拠に基づく国際的に調和した安全性評価法や活用法の発展に貢献する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「植物バイオテクノロジー報告書(旧「ERA プロジェクト調査報告」)(年4回)</li> <li>2. バイオテクノロジー応用微生物を利用して発酵生産された食品・食品添加物等の安全性に関するワークショップ</li> <li>3. 第16回 ISBR (International Society for Biosafety Research) 2024 への安全性評価の専門家の派遣</li> <li>4. 遺伝子組換えナタネの ERA に関する研究成果の論文発表</li> </ol>

	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
1, 2 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期間中に研究会は開催なし(新年度1回目は3月開催予定)</li> <li>・2023年12月開催高度精製WSの開催概要を機関誌「イルシー」No.158に投稿するべく、初稿を演者に確認いただき、ILSI Japan 事務局編集委員会へ送付。</li> <li>・ISBR DT パラレルセッション概要の論文が掲載された。</li> <li>・「植物バイオテクノロジー調査報告」No.66の発行に向けてスタート、原稿が集まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「植物バイオテクノロジー調査報告」No. 66のレビュー、発行、配布、送付先の見直し。</li> <li>・組換えナタネ論文原稿の最終化、投稿。</li> </ul>	農林水産省 厚生労働省 内閣府食品安全委員会 環境省 文部科学省 経済産業省 筑波大学環境系&つくば機能植物イノベーション研究センター(T-PIRC) 明治大学農学部 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)作物研究部門 横浜国立大学大学院環境情報研究院 千葉大学大学院園芸学部
3, 4 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2024年度第1回研究会を3月19日に開催。</li> <li>1. 2023年4月のISBRでのDTパラレルセッションの内</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「植物バイオテクノロジー調査報告」No.66の発行、送付先の見直し、配布No. 67のレビュー、発行、配布、送付</li> </ul>	農林水産省 厚生労働省 内閣府食品安全委員会

	<p>容を <b>Frontiers in Bioengineering and Biotechnology</b> に投稿、英語論文、和訳と要約を作成、次回の研究会時に関係省庁へ配布することが報告された。</p> <p>2. 2023年12月開催 高度精製WSの開催概要を機関誌「イルシー」No.158に投稿した原稿を確認。出版は5月予定であることが報告された。</p> <p>3. JBA Food Plus 研究会と3月1-2日に意見交換会を実施。今後も情報交換を継続することが報告された。</p> <p>4. 植物バイオテクノロジー報告書 No.66 原稿のレビュー及び今後の運営方法について課題が定期され、議論された。</p> <p>5. TC34/SC16に関する情報のアップデートが当研究会の名誉会長からなされた。</p> <p>6. 遺伝子組換え青色胡蝶蘭「Blue gene」の研究開発に関して機関誌「イルシー」No. 161に掲載が決定 出版は2025年2月。</p>	<p>先の見直し。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組換えナタネ論文原稿の最終化、投稿。</li> </ul>	<p>環境省 文部科学省 経済産業省 筑波大学環境系&amp;つくば機能植物イノベーション研究センター (T-PIRC) 明治大学農学部 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)作物研究部門 横浜国立大学大学院環境情報研究院 千葉大学大学院園芸学部</p>
<p>5,6月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2024年度第2回研究会を6月6日に開催。</li> </ul> <p>1. 2023年4月のISBRでのDTパラレルセッションの内容を <b>Frontiers in Bioengineering and Biotechnology</b> に投稿、英語論文、和訳と要約を作成。関係省庁へ配布され、論文2報と併せてILSIのウェブサイトに掲載されたことが報告された。</p> <p>2. 2023年12月開催 高度精製ワークショップの開催概要を機関誌「イルシー」No.158に投稿した原稿を確認。5月に出版されたことが報告された。</p> <p>3. 【Novel Food、フードテック、精密発酵 関連 各国認可・レギュラトリー状況の調査研究】 精密発酵の事例の分別、各国の規制状況を整理した review ペーパーを作成し、</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物バイオテクノロジー報告書 No. 67 のレビュー、発行、配布</li> <li>・組換えナタネ論文原稿の最終化、投稿</li> <li>・精密発酵の事例、各国の規制状況の調査</li> <li>・第17回 ISBR2025 専門家派遣のプロジェクト化可否の審議</li> </ul>	<p>農林水産省 消費者庁 内閣府食品安全委員会 環境省 文部科学省 経済産業省 筑波大学環境系&amp;つくば機能植物イノベーション研究センター (T-PIRC) 明治大学農学部 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)作物研究部門 横浜国立大学大学院環境情報研究院 千葉大学大学院園芸学部</p>

	<p>当局へ提出、シンポジウムでの発表等に用いるとの提案がなされた。</p> <p>4. 植物バイオテクノロジー報告書 No.66 の発行、送付先の見直し、配布</p> <p>5. 植物バイオテクノロジー報告書 No.67 原稿のレビュー及び今後の運営方法について課題が提起され、議論された。</p> <p>6. 遺伝子組換え青色胡蝶蘭「Blue gene」の研究開発に関して機関誌「イルシー」No. 161 に掲載が決定。出版は2025年2月。</p>		
7, 8 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回定例会は9月開催</li> <li>・植物バイオテクノロジー報告書 No. 67 の発行の準備</li> <li>・組換えナタネ論文原稿の最終化、投稿、レビュワーからのコメント対応</li> <li>・精密発酵の事例、各国の規制状況の調査</li> <li>・2024年度高度精製品ワークショップ企画準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物バイオテクノロジー報告書 No. 67 の発行、配布</li> <li>・植物バイオテクノロジー報告書 No. 68 のレビュー、発行準備</li> <li>・組換えナタネ論文アクセプト</li> <li>・精密発酵の事例、各国の規制状況の調査</li> <li>・第17回 ISBR2025 専門家派遣のプロジェクト化可否の審議</li> <li>・2024年度高度精製品ワークショップ開催</li> </ul>	<p>農林水産省 消費者庁 内閣府食品安全委員会 環境省 文部科学省 経済産業省 筑波大学環境系&amp;つくば機能植物イノベーション研究センター(T-PIRC) 明治大学農学部 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)作物研究部門 横浜国立大学大学院環境情報研究院 千葉大学大学院園芸学部</p>
9, 10 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2024年度第3回研究会を9月17日に開催。</li> <li>1. GM Soy with familiar traits の局長通知改正に関する Update/GM Canola 論文の Update: 2025年の計画として9月に ERA ワークショップ、11月に ISBR に参画することが発表された。10月22日の部会長会議で承認を得ることとなった</li> <li>2. 【Novel Food、フードテック、精密発酵 関連 各国認可・レギュラトリー状況の調査研</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物バイオテクノロジー報告書 No. 68 の発行、配布</li> <li>・植物バイオテクノロジー報告書 No. 69 のレビュー、発行準備</li> <li>・組換えナタネ論文アクセプト</li> <li>・精密発酵の事例、各国の規制状況の調査</li> <li>・第17回 ISBR2025 専門家派遣のプロジェクト化可否の審議</li> <li>・2024年度高度精製品ワークショップ開催</li> </ul>	<p>農林水産省 消費者庁 内閣府食品安全委員会 環境省 文部科学省 経済産業省 筑波大学環境系&amp;つくば機能植物イノベーション研究センター(T-PIRC) 明治大学農学部 国立研究開発法人農業・食品産業技術</p>

	<p>究】 精密発酵の事例と規制を紹介。また、リスクコミュニケーションの専門家を招致し登壇いただく予定。</p> <p>4. 植物バイオテクノロジー報告書 No.69 原稿のレビュー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精密発酵の事例、各国の規制状況の調査。</li> <li>・2024年度高度精製品ワークショップ企画準備。</li> </ul>		<p>総合研究機構(農研機構)作物研究部門 横浜国立大学大学院環境情報研究院 千葉大学大学院園芸学部</p>
11, 12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組換えナタネの環境リスク評価(ERA)に関する論文がアクセプトされた。</li> <li>・植物バイオテクノロジー報告書 No. 68 号の発行、配布</li> <li>・2024年度第4回研究会を12月16日に開催。 <ul style="list-style-type: none"> <li>i. GM作物関連 <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ GM Canola 論文の Update: 2025年の計画として8~9月にERAワークショップを開催、当該論文とデータトランスポートビリティ(DT)をテーマにすることが共有された。</li> <li>✓ ベルギー・ゲントで2025年11月に開催されるISBRにおいて、① DT、② 日本におけるスタック評価、③ ゲノム編集技術規制、④ 新規タンパク質評価の4つのセッションの企画をsubmitした。1月初旬にacceptされたか判明する予定。</li> <li>ii. 11月開催の部会長会議について報告された。</li> <li>iii. 当日午後開催の[組換え微生物を用いて発酵生産された添加物・食品の安全性評価～発酵生産し、精製した特定の食品成分の安全性に関して～WS]に関し、参加者数など説明された。</li> <li>iv. 植物バイオテクノロジー報告書 No.69 号原稿のレビュー</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>2. 組換え微生物を用いて発酵生産された添加物・食品の安全性評価～発酵生産し、精製した特定の食品成分の安全性に関して～</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物バイオテクノロジー報告書 No. 69 号発行準備</li> <li>・精密発酵の事例、各国の規制状況の調査</li> <li>・第17回 ISBR2025 専門家派遣プロジェクトの準備開始</li> <li>・石原産業が開発した「遺伝子組換え青色ファレノプシス Blue Gene」が機関誌「イロシー」に掲載予定</li> <li>・データトランスポートビリティ(DT)に関するワークショップ開催</li> <li>・2025年度高度精製品ワークショップ開催</li> </ul>	<p>農林水産省 消費者庁 内閣府食品安全委員会 環境省 文部科学省 経済産業省 筑波大学環境系&amp;つくば機能植物イノベーション研究センター (T-PIRC) 明治大学農学部 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)作物研究部門 横浜国立大学大学院環境情報研究院 千葉大学大学院園芸学部 東洋大学 生命科学部 生物資源学科 東京大学大学院農学生命科学研究科 食の安全研究センター</p>

	<p><b>WS</b> を開催。  <b>日時</b>：2024 年 12 月 16 日（月）  15:00～18:00  <b>場所</b>：江東区文化センター第一  ・第二会議室（対面形式）  <b>参加人数</b>：演者 7 名、聴講者 67  名</p> <p>プログラム</p> <p>15:00-15:10 本 WS の意義  加村澄子（ILSI Japan）</p> <p>15:10-15:30 フードテック（精密発  酵）に関する国内外の規制動向  高橋無盡（ILSI Japan）</p> <p>15:30-15:50 精密発酵のリスクコ  ミュニケーションを考える-遺伝子  組換えやゲノム編集のケースを振  り返って-  佐々義子氏（くらしとバイオプ  ラザ 21 常務理事）</p> <p>16:15-17:50 総合討論  児玉浩明先生（千葉大学）  中島春紫先生（明治大学）  山川隆先生（東京大学）  伊藤政博先生（東洋大学）  佐々義子氏  （くらしとバイオプラザ 21）  奥藤加奈子氏  （内閣府食品安全委員会事務局）  佐藤健太氏（消費者庁）  高橋無盡（ILSI Japan）  （司会：加村澄子）</p> <p>17:50-18:00 ワークショップのま  とめと閉会の挨拶</p>		
--	--	--	--